

試験期間・履修制限 変更



【発行所】
東京理科大学新聞会
tuspress@gmail.com
http://tuspress.jp

< 神楽坂校舎 >
〒162-0825
東京都新宿区
神楽坂1丁目3番地
2号館 2515 部室

本学では、今年度から新しく葛飾キャンパスが開設されるなど様々な変化が見受けられる。その中でも、試験期間の運用や理学部第一部と工学部第一部の一部の学年での履修の制限が、今年度から変更されるということを知っているだろうか。

今回、試験期間の運用と履修制限について、学部学務課に話を伺った。

昨年度までは、前期は7月中旬から8月上旬まで、後期は1月中旬から1月下旬までそれぞれ試験期間を設けていた。また、試験時間は60分間が一般的であった。現時点ではまだ試験の運用方法について具体的なことは決まっていない学科が多い。しかし、今のところ有力な案が二つ挙げられている。

一つ目は授業の最終日に試験を実施するという方法だ。本学では前期・後期ともに16週の授業期間が設定されている。その内、講義を1回目から15回目まで行い、最後の16回目に成績を決める上での試験を実施するといった構成である。つまり、最終週に全ての試験を一気に実施するということが、当然そうならば、余裕を持って勉強する時間を確保する必要があるだろう。

二つ目はそれぞれ曜日や時限をずらして15回の授業の中で（または15回

目の授業の中で）試験を実施するという方法である。これは90分の授業中に試験を実施するので途中退室できない。具体的な試験の実施方法については、今後掲示等を通して知らされる予定だ。どちらにしても決定される時期が試験直前であれば、どのような方法になっても試験に臨めるように、早めに試験勉強をしておく必要があるだろう。

以上の二つの運用のうち、どちらかと言えば、後者のほうが同じ日に試験が重なりすぎないため、学生にとっては勉強する時間を十分に確保できるはずだ。

ちなみに、追試については昨年度までとほぼ同じ時期に実施される予定である。他にも、レポートで成績を評価するほとんどの授業は今まで通り試験を実施する時期にレポートを提出するはずだ。そのため、どの授業がレポートなのかしっかりと確認しておくべきだろう。授業中に試験を実施する運用はあえて試験期間という名目を取らないが、これは学生に一つひとつの授業を大切にしたいという意味合いが込められているからである。

本学では全ての学部・学科・学年における履修に制限がかけられていたわけではないが、今年度から新たに工学部第

理学部第一部 学生の皆さんへ
(一部抜粋)

3) 授業および到達度の確認について

①平成25年度より前期・後期それぞれ16週間の授業期間で15回の授業を実施する。15回目(四半期の授業については、8回目)の授業において、その授業の到達度を確認する試験を行い、その試験結果が成績評価の一部として取り扱われる。また、レポート提出や日々の授業において成績評価を行う授業については、15回目は通常の授業を行う。15回目の授業日、教室は別途掲示にて周知する。

②追試験と再試験の違いについて十分に確認しておくこと(学習簿参照)。

③追試験の審査願について・・・受験できなかった正当な理由と証明できる書類が必要となる(会葬礼状・診断書・遅延証明書等)
⇒追試験の受験許可審査は非常に厳しい(学習簿参照)。受験料1科目1000円。

一部の全学年と理学部第一部の1年生の履修に制限がかけられた。具体的な単位の制限数は両学部とも49単位までとしている。学生からすれば卒業をするために単位を早く取りたいと思うはずだろう。しかし早く単位を取りたいあまり多く履修をしようと、勉強に費やす時間を取ることが困難になるはずだ。また、大学を設置するのに必要な最低限の基準を定めている法律がある。この法律に、一つの単位に対し予習・復習を含めて最低でも45時間は勉強しなければならぬという規定がある。その一つの授業に当てられる勉強時間を単位に換算した場合、一年間に履修することが出来る単位数はおおよそ50単位になる。上記のような理由から、今回の新たな履修制限も一年間に勉強出来る時間の限度を明確に表すために制限されたものだろう。

試験の運用方法や履修制限が変更され、今後また新たに様々な方針が変わってくる。これを機にこうした新たな知らせにも気を配ってもらいたい。

HIS
飯田橋営業所
03-3288-5661

営業時間
平日 10:00~19:00
土日祝 11:00~18:00
日・祝 休

ACCESS
JR飯田橋駅東口徒歩1分 / 地下鉄メトロ(東西線)南北線・有楽町線・大江戸線 A2出口徒歩30秒

▲ 理学部第一部の学科ガイダンス時に配られたプリントの一部

▼気象庁は先月14日に沖縄が梅雨入りしたと発表した。昨年よりも1日遅く、平年よりも5日遅い梅雨入りとなった。東京でも今月8日には梅雨入りする見込みだ。雨が続き、じめじめとした空気がのしかかるこの季節、気分が沈みがちになるのも仕方が無いだろう。▼「梅雨」という言葉は「梅の実が熟す頃の雨」からきているという説が有力であり、梅雨は日本を象徴する気候である。水資源豊かなこの国にとって、水を蓄え、草木を潤すこの時期は非常に重要だ。紫陽花、菖蒲が美しく咲き、雨蛙の鳴き声が聞こえてくる。日本人の心を持つていけばごく自然と心が落ち着くことだろう。四季の変化に富んだこの国は、季節折々の風景、匂いがある。残念ながら梅雨という季節分類は無いが6月の季節を尋ねられて「夏」と答える人はそういないだろう。▼ヨーロッパではジュニアブライド(6月の花嫁)といい、6月に結婚した花嫁は幸せになれるという伝承がある。結婚式が盛んに行われる季節なのだ。ヨーロッパは年間6月が最も雨が少なく晴天が続く。若者の季節と呼ばれ、季節的環境が良い月である。日本でもこの時期に結婚するカップルが多い。▼6月は憂鬱で億劫な月だが、捉え方によっては体も気持ちも充実したものになるだろう。明け方から降り出した雨の音を布団の中で聞きながら、二度寝したいものだ。騒がしい夏の訪れを前に、しっとりとした落ち着いた時間を。てるてる坊主が風鈴に代わる日も近い。(ざわわ)

▼「筆泉」

東京理科大学
3年生、修士1年生のみなさん!

会員登録は
お済みですか?

リクナビ 2015
インターンシップ & キャリア

6月1日サイトオープン! 会員登録スタート!

就活準備のためのお役立ちコンテンツが満載!

リクナビ2015 検索
http://job.rikunabi.com/2015/